



平成25年度 前期インターナショナルオフィスの活動

民間宿舎借り上げ事業

留学生宿舎の不足を解消するため、平成25年度より、香川大学花園寮、コーポ西町南の2棟の民間宿舎の借り上げを開始しました。

香川大学花園寮は、以前社宅として利用していた物件を借り上げたもので、幸町キャンパスから2.4kmに位置し、15部屋の居室と入居者が共有で利用する談話室、シャワールーム、洗濯室を有しています。日ごろの国際交流を目的とし、15部屋の内2部屋には日本人学生が入居しています。

コーポ西町南は幸町キャンパスから1kmに位置し、6部屋の居室を有した民間のコーポを借り上げたもので、各居室にはキッチン、シャワー、トイレなどの設備の他、ベッド、机、冷蔵庫等の備品を備えています。

8月3日(土)には、香川大学花園寮の入居学生と寮近隣の地域の方々との交流を図るため、また、日本文化を体験することを目的として、「花園寮交流会」(そうめん流し)を開催しました。

交流会当日は天気にも恵まれ、寮生らは、そうめん流しの竹を設置したり、稲荷ずしを作ったりして、地域の方々をお迎えする準備に励みました。準備が整ったところで寮生代表が地域の方々をご案内し、花園町自治会長様を始めとする地域の方々にご参加いただき、和やかな雰囲気ですスタートしました。そうめん流しを初めて経験される地域の方もいらっしゃいました。

このような交流の機会を通して、地域の方々との円滑なコミュニケーションを図り、今後も、お互いに気持ちよく生活できる環境を整えていきたいと思えます。

(インターナショナルオフィス 正楽 藍、国際グループ 浅野文恵)



地域の方々



そうめん流し

<国際交流活性化の推進>

学術交流協定締結調印

- 2013年 3月11日 本学とブラジル・州立ロンドリーナ大学との学術交流協定書、本学と州立ロンドリーナ大学との学術交流協定書に基づく学生の交流に関する実施細則
- 2013年 3月22日 本学農学部及び大学院農学研究科と州立ロンドリーナ大学農業科学部との学術交流協定に関する実施細則
- 2013年 4月 1日 本学と米国・コロラド州立大学との学生交流プログラムに関する実施細則
- 2013年 5月19日 本学工学部及び大学院工学研究科とドイツ・ボン＝ライン＝ズィーク大学との学術交流協定(再締結)、本学工学部及び大学院工学研究科とボン＝ライン＝ズィーク大学との学生交流プログラムに関する実施細則(再締結)、本学工学部及び大学院工学研究科とボン＝ライン＝ズィーク大学とのインターンシッププログラムに関する協定(再締結)
- 2013年 4月25日 本学と台湾・国立嘉義大学との間の学術交流協定書、本学と国立嘉義大学との学術交流協定書に基づく学生の交流に関する実施細則



国立嘉義大学との調印式

- 2013年 5月24日 本学とフランス・高等機械大学院大学(Supmeca)との学術交流協定、本学と高等機械大学院大学(Supmeca)との学生交流プログラムに関する実施細則
- 2013年 6月 6日 本学工学部及び大学院工学研究科と高等機械大学院大学(Supmeca)とのインターンシッププログラムに関する協定

アメリカ合衆国ネブラスカ大学カーニー校Dallas Kenney氏とのテレビ会議

平成25年4月22日(月)、アメリカ合衆国ネブラスカ大学カーニー校 Office of International Education のオフィス長・Dallas Kenny氏とのテレビ会議を開催しました。在大阪・神戸アメリカ総領事館と香川大学幸町キャンパスを結び、領事館ではKenny氏の他、領事館の首席商務領事・John Flemming氏と商務アシスタント・藤岡哲子氏が出席し、本学では、国際ナショナルオフィスの板野オフィス長、ロン・リム教授、飯田豊彦教授、正楽藍講師、国際グループの中野リーダーが出席しました。

今回のテレビ会議は、平成24年12月、Flemming氏と藤岡氏を本学へお招きしたことをきっかけとして成立しました。



Kenny氏(右から2番目)との記念撮影

会議では、本学学生のカーニー校への留学の可能性について意見交換し、カーニー校の特徴や留学生の受入れ態勢、他の日本の大学との交流状況等を確認しました。7月4日(木)には、Kenny氏が私用で香川へお越しになり、本学へもお招きしました。板野オフィス長から本学の概要について、ロン・リム教授から本学の留学生受入れについて、そして、正楽藍講師からは本学学生の留学状況について説明しました。

(国際ナショナルオフィス 正楽 藍)

コロラド州立大学生の表敬訪問

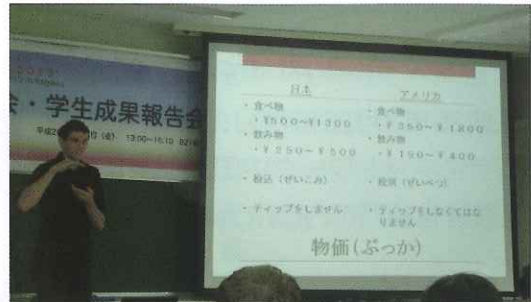
平成25年5月27日(月)から6月28日(金)までの5週間、「アジア・アメリカ異文化交流短期受入プログラム」として、交流協定校であるアメリカのコロラド州立大学より学生7名が来学し、単位取得のための研修を行いました。本プログラムは、今年初めて実施されたものです。

初日には板野インターナショナルオフィス長を表敬訪問し、歓迎の言葉を受けました。その後は、日本語学習、教育学部国際交流関連授業への参加、附属小学校見学、伝統文化体験等、さまざまな経験を積みました。日本語授業は集中講義形式で行われ、インターナショナルオフィス教員も担当しました。

(インターナショナルオフィス 塩井実香)



コロラド州立大学生の表敬訪問



最終プレゼンテーションの様子

アメリカ合衆国オウバーン大学モントゴメリー校Jacques L. Fuqua Jr.氏とのテレビ会議

平成25年6月14日(金)、アメリカ合衆国オウバーン大学モントゴメリー校 Office of International AffairsのChief International Officer・Jacques L. Fuqua Jr.氏とのテレビ会議を開催しました。在大阪・神戸アメリカ総領事館と香川大学幸町キャンパスを結び、領事館ではFuqua氏の他、領事館の首席商務領事・John Flemming氏と商務アシスタント・藤岡哲子氏が出席し、本学では、インターナショナルオフィスの板野オフィス長、ロン・リム教授、細田尚美講師、正楽藍講師が出席しました。

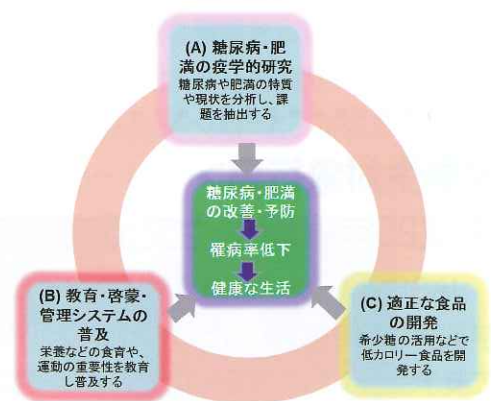
Fuqua氏によるモントゴメリー校のご紹介に続いて、本学学生の留学の可能性や留学生の受入れ態勢、他の日本の大学との交流状況等を確認しました。

(インターナショナルオフィス 正楽 藍)

本学とブルネイとの共同研究が日本学術振興会の事業に採択されました

独立行政法人日本学術振興会の「二国間交流事業オープンパートナーシップ共同研究」事業に、医学部の徳田雅明教授を代表とする研究プロジェクト「ブルネイ・ダルサラーム国と日本国における糖尿病及び肥満の比較研究を通じた国際貢献」が採択されました。本事業は、医学部・教育学部・農学部・インターナショナルオフィスなどの教員と大学院生が参加し、学際的なアプローチで同国の糖尿病・肥満及びその合併症の罹患率低下を目指します。実施期間は、平成25年8月1日～平成27年3月31日の2ヶ年で、この間に、香川大学とブルネイ・ダルサラーム大学の両方で調査を実施するほか、研究成果を公表するセミナーやフォーラムを随時開催します。

(インターナショナルオフィス 細田尚美)



糖尿病・肥満およびその合併症の罹患率の低下を目指す共同研究の概念図

アメリカ合衆国Eckerd大学Joel Thompson氏、Eileen Mikals-Adachi氏の表敬訪問

平成25年6月11日(火)～12日(水)に、セントピーターズバーグ市にあるエッカード大学のJoel Thompson氏とEileen Mikals-Adachi氏が来学しました。目的は、来年、先方から学生を引率して、瀬戸内海に関する課題に基づく、本学の学生と学習する短期プログラムの打合せです。中心的に対応したのは教育学部の教員です。また、農学部の教員は、庵治町にあるマリンステーションを案内しました。

(インターナショナルオフィス ロン・リム)

香川大学帰国留学生ネットワーク中国支部第3回総会

平成25年7月26日(金)、香川大学帰国留学生ネットワーク中国支部第3回総会を福建省廈門市内のホテルで開催しました。

総会には本学からは長尾学長、ロンインターナショナル副オフィス長、早川農学部長に加えて、帰国留学生の元指導教員らが出席し、中国からは30名の元留学生とその家族が参加しました。



長尾学長を囲んで記念撮影



学長と黄东阳会長(医学研究科卒)

帰国留学生ネットワーク中国支部は香川大学を卒業、修了した帰国留学生相互の親睦・情報交換を図るとともに、本学の国際交流の推進に寄与することを目的として、2009年6月に中国北京で設立しました。

総会では、現役員等が第2期の総括を行った後、新たに第3期役員を選出が行われました。また、学長と教員から近況報告が述べられた後、元留学生からは在学中に受けた指導への感謝や近況報告、卒業後の研究成果、今後の香川大学への期待などが寄せられ、本学教職員と交流を深めることができました。

今後、元留学生との連携協力と、本学の国際交流の推進が期待されます。

(国際グループ 尾松俊嗣)

<学生対象行事>

平成25年度留学生交流支援制度採択

JASSO(日本学生支援機構)による「平成25年度留学生交流支援制度(短期受入れ)」の「交流協定留学型」に採択されました。これは、海外の交流協定校からの特別聴講学生(いわゆる交換留学生)に対して奨学金が支給されるもので、本学では前・後期合わせて計13名が支給対象となります。

対象学生には、留学の本来の目的である学業に努めるのはもちろんのこと、今年香川県で実施される瀬戸内国際芸術祭に関わる各種行事(別項参照)や日本人学生・地域住民との交流行事等への積極的な参加を求めています。

(インターナショナルオフィス 塩井実香)

全学共通科目「Study Abroad」

平成25年度新規開講の全学共通科目「Study Abroad - Global English at UC/UWA」がスタートしました。本科目は、これまでインターナショナルオフィスが正課外として実施していた短期語学研修の内、英語圏(カナダ及びオーストラリア)の学術交流協定校での語学研修を正課科目(2単位)として開講したものです。研修先の大学と期間は次の通りです。カナダのカルガリー大学(研修期間8月5日(月)～8月30日(金))とオーストラリアの西オーストラリア大学(研修期間8月26日(月)～9月27日(金))

今年度は経済学部と法学部、農学部、医学部の計14名が受講しており、学年も1年次生から4年次生までが参加しています。

昨年度までの正課外としての研修では海外研修のみでしたが、今年度からは前期の授業期間中の国内研修と協定校での海外研修、そして、帰国後の成果発表会を行います。国内研修では英語によるプレゼンテーションや自己紹介、協定校でのグループワークを想定した活動の他、TOEFL-ITP受験も経験します。14名の中にはほぼ初めての海外渡航となる学生もあり、協定校への参加登録から渡航手続き、危機管理セミナーと続く渡航準備にドキドキしている様子です。

海外研修が有意義な体験となるよう、そして、海外研修を通して大学生活、さらに自己のキャリアの目標を見つけられることを願っています。
(インターナショナルオフィス 正楽 藍)



国内研修の様子(グループワーク)



国内研修の様子(プレゼンテーション)

地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業採択

本事業は、日本国内の外国人留学生を活用し、中小企業の海外展開を支援するため、中小企業と外国人留学生などのグローバル人材とのマッチング、人材育成・定着を行うものです。四国地域においては四国生産性本部が実施機関となり、本事業が採択されました。香川県での実施に関しては、香川県留学生等国際交流連絡協議会の一員として、本学も緊密に連携しています。平成25年7月4日(木)には、「中小企業の魅力研究セミナー&交流会」が実施され、留学生はこの機会を活用して、積極的に様々な質問をしていました。7月26日(金)の「外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談会 留学生採用支援セミナー」においては、在留資格制度の諸問題や留学生採用時の留意点が扱われ、本事業推進のための環境整備へ向けて、情報提供が行われました。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



セミナーの様子



企業の皆様と懇談する留学生

法学部国際交流委員会主催「留学・国際交流ガイダンス」への参加

平成25年5月29日(水)、法学部国際交流委員会主催の「留学・国際交流ガイダンス～香川大学の留学支援体制と法学部2013年夏期短期訪問事業の紹介～」において、インターナショナルオフィス・正楽藍講師が「香川大学における留学支援体制について」を法学部学生らへ説明しました。

一口に「留学」と言っても、そのタイプは短期語学研修や交換留学などいくつもあり、内容や目的、期間、手続きの方法はさまざまに異なります。ガイダンスではそれぞれのタイプについて説明し、どのような準備をいつ頃から開始するべきかを参加学生らへ伝えました。

ガイダンスの後半は法学部・辻上佳輝准教授が「法学部2013年夏期短期訪問事業について」で、学術交流協定校である台湾の国立政治大学へ訪問事業の募集説明を行いました。4月に本学学長と共に訪問した際の様子を紹介しながら、国際交流体験の第一歩としての短期訪問の意義をご説明されました。

(インターナショナルオフィス 正楽 藍)

第19回日本語語学研修プログラム

平成25年7月1日(月)から12日(金)まで2週間、韓国・清州大学より4名、台湾・真理大学から2名の研修生が参加して行いました。期間中に梅雨明けを迎え、前半は雨まじり、後半は猛暑の研修となりましたが、教室内での授業だけでなく、うどん打ちをしたり、本学学生の指導で茶道・華道・書道を体験したり、栗林公園・四国村の見学や2泊3日のホームステイ、本学Buddies学生との交流を楽しんだり、充実した2週間を過ごしました。

(インターナショナルオフィス 塩井実香)



インターナショナルオフィス長表敬訪問



華道体験



最終日の送別会にて

平成25年度インターナショナルオフィスFD・SDワークショップ

「海外渡航者・教職員向け 危機管理セミナー」

平成25年8月5日(月)、インターナショナルオフィス主催「FD・SDワークショップ」(教職員対象(午前の部))と「危機管理セミナー」(学生対象(午後の部))を開催しました。昨年度2月の危機管理セミナー同様、ジェイアイ傷害火災保険株式会社リスクソリューション担当部長・城戸克斉氏を講師としてお招きしました。

インターナショナルオフィスの板野オフィス長の挨拶に続いて、城戸氏には、海外研修プログラムを担当する教職員及び本学の危機管理を担当する職員を対象として、引率中、または日本待機中に海外で危機事象が発生した場合の行動や心構えなどについてご説明いただきました。午後の部では、この夏から秋にかけて海外への渡航を開始する本学学生を対象として、現地の空港へ到着してから研修期間中に起こり得る危険な状況について、過去の事例をまじえながらご説明くださいました。

危機に備えた海外旅行保険などへ加入することはもちろんですが、どのような場面でどのような危機に遭遇する可能性があるのかを理解しておくことは、海外での自分の身を守るためには大変重要です。

(インターナショナルオフィス 正楽 藍)



危機管理セミナー FD・SD



危機管理セミナー

平成25年度第1回香川大学オープンキャンパス

平成25年8月8日(木)、幸町キャンパスでのオープンキャンパスへの参加者向けに、本学の海外留学支援制度に関する説明を行いました。当日は学生会館1階の生協食堂に特設ブースを設け、海外留学や国際交流に関心を持つ参加者からのご質問へインターナショナルオフィス教員と国際グループ職員が対応しました。また、研究交流棟4階の正楽藍講師の研究室を開放し、交換留学や奨学金などについてのご相談へ対応しました。

(インターナショナルオフィス 正楽 藍)



参加者へ対応する細田講師

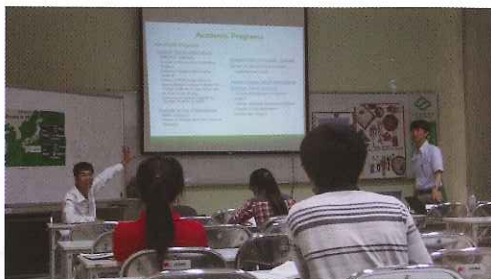
<外国人留学生リクルーティング活動>

平成25年度日本留学フェア(ベトナム)他

今年度も、本学は留学生のリクルーティング活動として、国内外の各種説明会に参加しています。平成25年5月25日(土)と26日(日)には、ベトナムのホーチミンとハノイの留学フェアに参加しました。これらの都市では、初めての試みとして、本学卒業生の協力を得て香川大学単独での説明会も行いました。その後6月から9月にかけて、国内で計7回の説明会に参加しました。内訳は、大阪4回、岡山2回、高松1回です。いずれの会場でも、多くの留学生が本学ブースを訪れました。優秀で意欲のある留学生が、進学先として本学を選択してくれることを願ってやみません。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)

開催日	開催都市
5月24日(金)	ベトナム(ホーチミン、単独)
5月25日(土)	ベトナム(ホーチミン、留学フェア)
5月26日(日)	ベトナム(ハノイ、留学フェア)
5月27日(月)	ベトナム(ハノイ、単独)
6月3日(月)	岡山
6月29日(土)	大阪
7月18日(木)	岡山
7月19日(金)	高松
7月21日(日)	大阪
8月30日(金)	大阪(校内ガイダンス)
9月6日(金)	大阪



卒業生のDr. Dao Van Tan(左端)と高水講師(右端)



ブース対応する飯田元副オフィス長(奥)と平岡専門職員(右端)

<地域との交流活動>

瀬戸内国際芸術祭2013

留学生と日本人学生が本島でお接待体験

平成25年4月13日(土)、香川県丸亀市本島で、留学生と日本人学生18名が、江戸時代から続くとされる伝統行事「お大師まいり」に参加し、島の方々に教えてもらいながら、11か所の寺院に訪れる参拝者に、小豆ご飯などの食べ物や飲み物をふるまうなどのお接待をしました。

この活動は、瀬戸内国際芸術祭香川大学プロジェクトであるインターナショナルオフィス主催「本島・栗島国際交流プロジェクト」の一環で実施したものです。

学生たちは、「八十八ヶ所巡りは香川に来る前に習ったが、弘法大師が中国にいたことまでは知らなかった」、「初めてのお接待でわからないことがあったが、島の人が親切に教えてくれた」、「島の人や参拝者と色々な話ができて、とても楽しかった。また島に行きたい。」と話していました。

インターナショナルオフィスでは、留学生や日本人学生が、瀬戸内の文化や歴史、芸術等への理解を深めたり、島の伝統行事やイベントなどの交流活動で得た学びを国内外に発信する能力を養うことで、学生の活躍で地域の活性化につながる国際交流を目指しています。

(国際グループ 池田紗和子)



留学生と本島の方々



お接待をする留学生

留学生と日本人学生が栗島でお接待体験

平成25年4月30日(火)、香川県三豊市詫間町栗島で、島の文化を学ぶために、留学生10名を含む学生13名が、「島四国88カ所巡り」に参加し、巡礼者に、ところてんやうどんなどのお接待をしました。

この活動は、瀬戸内国際芸術祭香川大学プロジェクトであるインターナショナルオフィス主催「本島・栗島国際交流プロジェクト」の一環で実施したものです。

学生たちは、島の方々に教えてもらいながら、ところてんやうどんを皿にわけて配り、笑顔で「お気をつけて」と巡礼者を見送っていました。

今後も栗島で、秋祭りなどの伝統行事に参加させていただく予定です。

(当プロジェクトの活動は、Facebookで見ることができます。「瀬戸内国際芸術祭2013 香川大学本島・栗島国際交流プロジェクト」で検索してください。)

(国際グループ 池田紗和子)



うどんのお接待



巡礼者との交流

第17回夏日帰り旅行(小豆島)

平成9年以来、毎年、KUFSA（香川大学留学生会）とICES（香川大学異文化交流会）は瀬戸内海に浮かぶ島々で海水浴のイベントを企画してきています。平成25年7月14日(日)、小豆島の鹿島ビーチへ行ってきました。例年と同様、高松東ライオンズクラブの支援を頂き、また、今回小豆島ライオンズクラブの協力で、無事に実施できました。学生たちは海水浴やビーチでの遊び、スイカ割りなどで一日楽しく過ごしました。参加者人数は90名で、そのうち留学生は44名、日本人学生は31名、そして高松東ライオンズクラブの会員は15名でした。また、参加者の国籍は13カ国でした。(中国、アメリカ、タイ、メキシコ、フランス、マレーシア、バングラデシュ、日本、ベトナム、韓国、ブラジル、ドイツ、ロシア)

(インターナショナルオフィス ロン・リム)



集合写真

第19回「世界食文化」のイベント(綾川町)

平成7年に発足した「世界食文化」のイベントは、今年で第19回となります。主催は綾川国際交流会で、平成25年8月10日(土)に開催されました。今回、留学生の参加者は19名で、中国から8名、タイから11名でした。地元の方々はおよそ40名参加してくださいました。四つのグループに分かれ、予め購入してきた材料を綾川国際交流会の方々と一緒に国自慢料理を調理しました。恒例イベントとなってきたこともあり、今年も混ぜ寿司やうどん、そして地元でとれたスイカも食卓に乗せました。試食後、高松西消防署による防災セミナーに参加しました。

(インターナショナルオフィス ロン・リム)



集合写真

■以下の活動については、国際オフィスのホームページで詳細をご覧ください。

平成25年度4月期新入外国人留学生ガイダンス

平成25年4月6日(土)、国際オフィス・留学生センター主催「平成25年度 新入外国人留学生ガイダンス」を開催しました。ロン留学生センター長の挨拶の後、この春、本学へ入学してきた外国人留学生に対して、日本で生活する上での注意事項や様々な手続等に関する生活ガイダンスと高松北警察署による法令遵守ガイダンスを実施しました。



自転車シミュレーターを使った体験

タイ公使参事官アリニー・タナワット サッチャセーリー氏の表敬訪問

平成25年4月22日(月)、タイ公使参事官のアリニー・タナワットサッチャセーリー氏が農学部長を表敬訪問されました。本学からは板野理事(総務・研究担当)、早川農学部長、加藤教授他4名が出席しました。表敬訪問では板野理事からの歓迎の挨拶の後、参事官から挨拶の言葉がありました。懇談会では農学部のタイ人留学生13名が参加し、香川での生活や奨学金について意見交換が行われました。



記念品の贈呈

(左からアリニー参事官、板野理事、早川農学部長)

長尾学長の国立政治大学及び真理大学訪問

平成25年4月26日(金)、長尾学長、経済学部高橋教授、法学部辻上准教授、国際グループ尾松サブリーダーが、本学の学術交流協定校である台湾の国立政治大学と真理大学を訪問しました。国立政治大学では呉思華学長、陳樹衡国際協力局長、蘇文朗日本語学科長、陶韻恵国際協力局アジア太平洋担当部長らと、真理大学では林文昌学長、郭碧蘭国際交流センター長らと学術及び教育の交流などについて意見交換を行いました。



国立政治大学訪問の様子

サボア大学 Laurent Foulloy 教授の本学訪問

平成25年5月1日(水)、サボア大学 Laurent Foulloy 教授が工学部と幸町キャンパスを訪問されました。工学部では増田工学部長他4名が出席して懇談を行うとともに、澤田教授、垂水教授、郭教授、末永教授の研究室を見学されました。幸町キャンパスではフランス語の授業にて学生を対象に講演された後、板野オフィス長、飯田副オフィス長、澤田教授他13名が出席し、両校の今後の交流について議論しました。



懇談会の様子

留学生の声

My personal life at Kagawa:



Tamzeed Al Alam
大学院 工学研究科
博士前期課程 1年

It has been long since I am here at Kagawa. For the last ten months it has been my home. As I am supposed to write about my personal life here, better to start with personal matters.

In Kagawa, my life consists of two parts. One is the school part- I have already written about that in another article. And the second is consisted by living in dormitory, making bicycle tour in near mountains, go to the sea beach even in sunrise and late night, hiking the mountain behind my dormitory at night and the most of all is enjoying company of people from different countries in the house.

Its been my regular routine to cook some cuisine from my country for the friends in the house and they also have to do the same for me as well. But being the only Bangladeshi people in the dorm, whatever I cook that becomes a heavenly meal to them as there is no one to check my faults.

It would not be a justice if I don't talk about the natural beauty of Japan. Japan, a country where the mighty mountains never stop kissing the cloudy soft lips of sky, even she keeps poisoning him to the blue. A land of blue mountains.

As a person, I am a family guy. I enjoy being with family and friends. So coming to Japan all alone was like nearly banishment for me. But from the very first day of my staying here I felt the warmth of friendly people. It was so amazing living with those people, I wish if I could bring them back in Japan around me and live with them forever.

飯田副オフィス長退職のご挨拶

香川大学インターナショナルオフィスでの3年間を振り返って

「香川大学の国際戦略の策定とその実現」という重大ミッションを帯び、研究交流棟4階で国際グループの皆さんと仕事をするようになったのは、平成22年7月のことでした。爾来3年間にわたる香川大学での毎日は、知的な刺激に富み、五感を総動員する日々でした。

国際戦略については、オフィス委員諸氏と大いに議論し、香川大学らしくコンパクトで、バランスの取れた骨格を示すことができました。2年目以降は、国際的な重点研究テーマ・分野を中心とする学部大での具体的な展開支援に軸足を移し、この一環として、農学部の皆さんと一緒に、ベトナムにおける食品産業の市場調査と相互発展の可能性を探る調査・報告を完遂し、国際間の大学間連携のみならず食品産業のグローバル展開の足掛かりを築けたことは、最大のトピックスと言えるでしょう。

香川大学を取り巻く環境は益々厳しく、4&1はじめ、大胆な施策を次々と展開してゆく必要があります。インターナショナルオフィス、そして香川大学の皆様におかれましては、国境を越えて活躍するグローバル人材の育成や地域の国際化に向け、今後益々活躍いただけるよう心より期待いたしております。本年7月より、仕事をするようになりました四国総合研究所は、電気事業を通じて培った環境・エネルギー、バイオ化学、土木、電力利用等の技術を地域の産業・社会に広く活用いただくことを事業目的としております。香川大学との共同事業がより一層拡大することを願っております。

前・香川大学インターナショナルオフィス副オフィス長

(株)四国総合研究所 取締役事業管理担当部長 飯田 豊彦

着任のご挨拶

皆さん。初めまして。

9月からインターナショナルオフィスで、留学生の受入や留学希望をする日本人学生のサポートなどを担当するキムと申します。

こちらに来る前までにはソウル所在の大学で日本人留学生さんの募集、サポートなどをしていました。

当時の経験を活かして、皆さんがより楽しく留学生活を送れますようにサポートしたいと思っております。

今後ともよろしく申し上げます。

インターナショナルオフィス 金 錫換 (キム ソッフアン)



インターナショナルオフィスからのお知らせ

● 香川県留学生等国際交流連絡協議会シンポジウム

「留学生と地域でつくる国際交流～外国人留学生が瀬戸内国際芸術祭から学んだこと～」

香川県留学生等国際交流連絡協議会主催・香川大学インターナショナルオフィス共催のシンポジウム、「留学生と地域でつくる国際交流～外国人留学生が瀬戸内国際芸術祭から学んだこと～」を開催いたします。日時と場所は以下の通りです。

日時：平成26年1月17日（金）、13：30～17：30

場所：サンポートホール高松 第2小ホール

本シンポジウムは、公益財団法人中島記念国際交流財団助成「留学生地域交流事業」を受けて開催するものです。詳細はインターナショナルオフィスのウェブページなどでご案内します。

香川大学
インターナショナルオフィスニュース
第9号 2013(平成25年).9.30

香川大学インターナショナルオフィス
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel：087-832-1194 Fax：087-832-1192
E-mail：soryugase@jim.ao.kagawa-u.ac.jp
URL：http://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/
留学生センターfacebook
URL：http://www.facebook.com/KUISC